

## 児島先生の思い出

高野秀夫

(英語)

児島先生が、若くして私たちの学び舎から去られ、再び会えないことは誠に残念でなりません。

穏やかなお人柄、優しい語り口、もくもくと仕事をこなしてゆく態度は、先生が、誰からも好感を持たれるゆえんです。それは、悠久の時を刻み、遣唐使の頃から日本の文化思想に多大な影響を与えてきた中国の学問を究めようと一生懸命努めてこられ、身につけられたものと思います。日本の将来の繁栄は、ますます中国なしでは考えられない時代になってきました。今こそ日本は中国との関係を真剣に捉え、しっかりとした考えや態度を持たなければ明るい未来は決して見えてこない時に、我が大学での先生の果たす役割は、大きく、学生も大いに期待していたことでしょう。

私が初めて先生と親しく話し合う機会が出来たのは、教職員組合の代議員会の一員として学会館の三階でお会いした時でした。先生は、会議にほとんど休むことなく出席して、こまめにメモをとっておりました。大学の多額不良債権の出来事で学内も紛糾し、そのつど臨時代議員会が開かれました。大学当局の杜撰な経営体質が曝け出された大変な時期の組合活動でした。第一研究館六階の資料室での外国語第一、二部門の代議員会報告では、何度も先生のお世話になった事が思い出されます。今大学は、多くの先生方の退職、新任の先生の歓迎で職場が大きく様変わりし始めています。新旧交代の時期にさしかかっている我が学園の将来を担う新任の先生方への期待はますます大きくなっています。先生には、これからの駒澤大学の将来を築きあげ、希望に満ちた学園建設のために頑張ってもらえることと信じておりました。

短い間のお付き合いでしたが、素晴らしい思い出を残してくださいました。本当に有難うございました。

先生のご冥福を心よりお祈りいたします。